
ラブレター

ムーンガルド子爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ラブレター

【Nコード】
N2414Y

【作者名】
ムーンガルド子爵

【あらすじ】
ファンモンのラブレターに共感して……

「ねえ、君って好きな人とかいるの？」

霞んだ記憶の中で、彼女が尋ねた。

「さあね？」

曖昧だった僕の答えに、彼女はふくれっ面で「そっか」と呟いた。
でも、今はちゃんと答えることができる。

僕は君のことが――

）・）・）・）・）・）・）・）・）・）

ほんと、僕はどうしてしまったんだろう……。
胸が苦しくてしょうがないんだ……君の笑顔を見ていると。

でも、思っんだ、僕の願いは君と目を合わせて笑いあうこと。
いつか、叶うことを願うよ……。

1 .

「ええー！ほんとに？ありがとう」

昼休み、なんの変哲もない昼休み。

横目で僕は彼女を見つめていた。笑顔で周りも笑顔にできる、そんな女の子。

「由美！あれ？いちゃついてた？ごめんね」

男子と話していたせいかな、遅れてきた女子に由美と呼ばれた子が

からかわれる。

けど、僕にはそんなこと気にならなかった。いや、耳に入らなかった。

“あれ？いちゃついていた？”

女子生徒のさり気ない言葉が、僕の頭の中を反芻していた。

と、その時、胸がきゅーっと締め付けられた……。

由美から視線を外し、この気持ちの意味を考えた。悟っていたはずなのに。

背中に視線を感じ、僕は振り返った。

「っ！」

臆病な僕を恨み、吐き出した深呼吸はため息交じりだった。

2 .

——世界中の誰よりも……多分君よりも僕は君を見つめてる。

「どうしたの？今日」

由美が僕の顔を覗き込んだ。

がばつと身を起こし、僕は戸惑う。

「え、あ、な、え」

吐き出される言葉は端的で、何を言ってるかわからなかったけど、由美は微笑んだ。

放課後の心地よい風が僕の頬をなじり、沈黙を愛でる。

「おーい、由美！一緒にかえろーぜ？」

あ、うん。と離れていく彼女が、本当に離れていってしまうみたい……。

遠く存在になってしまいそう……。

嫌だっ！もう嫌だっ！

「え？」

気づいたら、僕は由美の手首をつかんでいた。

あー！僕のばかあつ！

涙目で自分を責めていると、彼女は微笑み、うん。と頷いた。

「あー。ごめん！用事思い出した！先かえってて？」

あー、そうか！じゃなつ。という歯切れのいい返事が聞こえ。また、沈黙が教室に降りてきた。

微笑みを浮かべる彼女の顔を見ると、本当に胸が壊れそうなほど胸が苦しくなる。

耐え切れなくなつて、僕は教室を飛び出た。

困惑する由美を残して……。

口に出来ない歯がゆい願いを噛み締めた。

前みたいに話せなくなつて、初めて気づいた……。

もう、僕は君に本気だ……。

3 .

ベッドのカバーを強く握り締めながら……。

「う……うっ……」

もしも、君が涙を流したら、真っ先に僕が拭いてあげたいと思うでも、今、泣きそうになつてるのは僕のほうだなんて……。

この時間が……君と逢えない時間……一人ぼっちの時間が……。君への想いを膨れ上がらせるよ……。

いつか、支えきれなくなる前に、僕は伝えたいな。

——ありがとう。出会ってくれて……。

ごめんなさい。こんなにも、大好きで……。

4 .

学校の屋上に上ると、心地いい風が、そしてどこからが臆病風をつれてくる。

胸にしまった、グシャグシャの手紙に手を当てた。

今、これだけ好きな人がいるだけでも幸せだって。きつとそうなんだ。多分そうなんだ。

そう自分に言い聞かせて。

——君の笑顔を見ると、胸が苦しくなるんだよ

こんな気持ちなんてなにも知らないだろうけど

今日も僕は願ってる 瞳を合わせて笑えるように……

君が誰かと楽しそうに 話すだけで切ないよ

こんな気持ちは誰にもいえないだろうな

だから僕は想うだけ……

——君が大好きです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2414y/>

ラブレター

2011年11月5日13時20分発行